

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771100179		
法人名	有限会社 タムラ		
事業所名	グループホーム はこべ B棟		
所在地	福島県田村市常葉町常葉字七日市場99番地		
自己評価作成日	平成24年 7月25日	評価結果市町村受理日	平成24年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2011年3月11日、穏やかで自然豊かな当事業所は一変してしまいました。福島原発より34km、被災した家族も多く、利用者と共に避難も検討しましたが、リスクの多さに断念、残ってくれたスタッフと、ここで続ける選択をしました。当初は全国、また地域より安否確認、ボランティア、支援物資等を頂き、心強かったです。この場をお借りして、全国、地域の皆様に感謝申し上げます。目に見えない放射線との戦いで、利用者、スタッフが精神的ストレスを感じないで行けるよう、寄り添った介護を、また、少子高齢社会が急速に加速して行く中、グループホームが地域の中で担う役割を考え、介護を続けて行きます。静かに静かに、少しずつ、はこべの花のように！！

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常のケアの実践が理念に沿ったものか、常に話し合いを持っている。新人職員にも理念について説明し、全職員が理念を共有出来るよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事を通しての交流がある。事業所主催のはこべ祭り、クリスマスショーのお知らせを地域住民に配布して回り、多くの地域の方々との交流や協力を得る事が出来た。季節の花や野菜を頂く事も多い。近隣の幼稚園より行事の招待を受け、訪問している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や町内の方から、認知症介護についての相談を受ける事がある。認知症の理解や、症状への対応の工夫などを伝え、また、家族の負担などについても相談を受けている。町内での認知症行方不明者の捜索に加わったこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	多方面の方々の協力が得られ、有意義な意見交換が出来ている。東日本大震災、原発事故後の情報交換や、放射線についての講話、避難訓練等、協力が得られている。看取り介護の在り方について意見があり、後日、職員アンケートを実施しサービス継続につながっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者、地域包括支援センター職員との連携が図れるよう努めている。事業所の実情や待機者の状況について伝えている。推進会議の際には地域包括支援センター職員と、地域の高齢者の情報交換を行ったり、市の担当者にも出席して頂いたりした。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議やミーティング等で、日常ケアの中に拘束にあたる行為がないか確認を行っている。職員全員で拘束しないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせず、自由に入出りできるようにしている。外へ行きたい時には、職員が付き添うようにしている。拘束の弊害を理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての勉強会を実施している。虐待にあたる行為がないか、虐待と見られる言動がないか、日頃から確認しながらケアを行っている。利用者の些細な変化も見逃さないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人の意思決定の支援、苦情の捉え方等、常に話し合っている。金銭管理については本人、家族と相談し、必要があれば、制度の活用について話し合っている。制度利用に至った方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時、契約時に係わらず、いつでも疑問の声には十分な説明を行い、納得して頂けるように努めている。料金改定の際にも、説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者だけでなく、家族や関係者が意見、要望を言い易い関係作りに努めている。運営推進会議に家族代表に出席して頂いたり、苦情、意見ポストを設置している。3か月ごとのカンファレンスには家族の参加を求め、運営についての意見も伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会では代表者も出席し、職員との意見交換の場を持っている。管理者は毎朝のミーティングや普段からも職員の意見に耳を傾けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者との個人面談を行い、個人の勤務状況や、やりがい等について話し合った。職員の家族や、家庭の状況にも配慮しながら働けるような体制が出来ている。資格取得や研修参加への支援も行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	震災、原発事故の為、外部研修の機会が少なかったが、去年は全職員が、交流のあるデイサービスでの研修を実施した。希望者は認知症の研修に参加し資質の向上に努めている。また、入社後、資格取得の為に通学している職員には、時間の配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	デイサービスへの研修、相互訪問を実施した。レクリエーションや接遇等について研修を受け自己の振り返りとサービスの質の向上についての話し合いの機会を持つ事が出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に来る範囲の情報収集を行っている。また、本人とじっくりと会話をしたり、何気ない発言から得られる情報を見逃さない様に努めている。本人との信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係作りに努めている。家族が感じている不安、要望、困っていること等には十分に耳を傾けるようにしている。サービス以外の事や家庭の状況についても家族が話しやすい、相談しやすい環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報収集と可能な範囲でアセスメントを実施している。また、カンファレンスの際にも本人、家族の意向を把握し、現状に合ったサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事を、職員と一緒にしてもらい、家族のように支え合える関係作りをしている。洗濯物たたみ、料理の下ごしらえ等を一緒に行っている。地域の習わし、季節の行事等を教えて頂くことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その方の状態に合わせ、家族との外出、外泊の機会を持って頂けるようにしている。家庭環境の状況も十分把握し、また、本人の状態を十分に報告し、家族と共に支え合える関係を築いている。お墓参りや外食などにも行かれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの行きつけの美容院や、馴染みの店での買い物が継続できるよう支援している。新しく入居された方も家族が頻回に面会に来られ、不安を軽減出来ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居間もない方には特に配慮し、職員がレクなどの際に間に入り、関わり作りに努めている。気の合う方合わない方を把握し、常に見守りを行い、孤立することが無いように配慮している。入居者同士気遣ったり、励まし合う姿も見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や死亡による契約終了後も、必要があれば相談に応じたり、出来る事は支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月ごとのカンファレンスの際には必ず、本人、家族の意向を確認するようにしている。また日常の会話や表情などの中からも汲み取ることが出来るよう注意している。職員本位となってしまうっていないか、本人本位であるか話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に可能な範囲の情報収集を行い、入居時にも生活歴の聞き取りを行っている。又、普段の会話の中に、生活歴を把握できる話題を取り入れたり面会時には家族からも情報収集出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のペースを把握し、尊重するようにしている。臥床のペースや、外気浴、散歩等個別に支援している。小さな変化や、出来る事の発見に努め記録し、情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が毎月、必要時は随時モニタリングを行っている。全職員でカンファレンスを行いサービス内容を見直している。また3か月ごとに本人、家族の意向の確認とアセスメント、モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノート等で状態の把握と共有に努めている。体調不良や状況の変化が見られる方に対しては、特に注意して記録を行い状況把握に努めている。排泄、水分、食事摂取量、ケア実施票等を活用しケアの実践、計画見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	原発事故後には緊急避難に備え、水戸市に避難先を確保し、個々の家族と対応について話し合った。事業所独自で環境放射能測定を行っている。 遠方の家族には面会時の宿泊についても対応したり、看取り期の入居者様の家族の付添い、宿泊も対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開所7年目となり、地域の方々の認知症の理解も深まっている。行きつけの美容院、商店の方々にも協力を得られ安心して外出されている。野菜直売の方が時々来所され、入居者様に野菜を選んでもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を取りながら、受診、訪問診療等が適切に行われている。又、状態の変化が見られたり、緊急時はドクターに速やかに報告し、指示を受ける事が出来ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常の早期発見に努め、状態の変化や異常があれば、職場内看護師に随時相談し速やかに対応を行っている。かかりつけ医の看護師との連携も図れており、普段の様子などの情報交換も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に備え、協力医療機関との情報交換、相談等連携が図れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族、かかりつけ医と常に連携し、話し合っている。全ての入居者様の家族に、終末期の在り方について家族で話し合ってもらおう依頼し、3か月ごとに方針についての同意書を得ている。家族の方針に変化が見られたりすることがある為、看取り介護については、随時十分な話し合いを持つようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、全員が対応出来るようにしている。事故発生時の対応マニュアルも出来ている。半数の職員は普通救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災、地震を想定した避難訓練を実施している。地域住民の方々にも協力をお願いし、多数、避難誘導の訓練に参加して頂いた。非常災害時には協力を得られる体制が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の誇りやプライドを損ねないよう十分配慮している。長く関わりを持つうちに、慣れによる言葉の乱れ、口調の強さがないか等、注意しながらケアにあたるようにしている。プライバシーについても、常に本人の立場で考えるように注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に言動の少ない方には小さな事でも自己決定出来るよう場面作りや、声掛けの仕方に注意している。言葉以外の訴え等にも注意して観察を行っている。大声を繰り返す方には、本人のその時の想いを推察しながら対応しているが、難しさを感じている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、作業等は興味を持てたら参加して頂いている。料理の下ごしらえや、カラオケなどを促し、希望者は参加されている。又、意欲が見られない方や拒否される方については、それぞれの原因に配慮し促し方を工夫し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方にあった支援を行っている。馴染みの美容院へ外出したり、好みの洋服を買いに行かれる方もいる。行事や外出の際には、お化粧など、おしゃれの支援をしている。美容クリームやヘアクリームなどを自分で使われる方もいる。使い過ぎないように見守り、声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	出来る方と一緒に皮むき、刻み等を行っている。時々、調理実習と題し皆さんで焼きそば、お好み焼き、おはぎなどを楽しんで作っている。昼食は職員も一緒に食卓を囲み楽しく食事が出来るよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量のチェックを行い、注意して観察している。個々の状況に合わせた食事形態で提供し、介助方法の工夫を行っている。健康診断個人票にて、個人の栄養状態について把握し食事メニューにも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれの状態に合わせた介助を行っている。出来る方は声掛け見守り、要介助の方には、義歯、自歯磨きの介助、口腔内清拭介助を行っている。口腔内状況の観察も行い、異常の早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを知り、早めに声掛け誘導を行ったり、自分でトイレへ行かれる方には自尊心、羞恥心に配慮した介助を行っている。時々放尿が見られる方には、注意して状態観察を行い、状態に合わせ、居室にポータブルトイレを置き対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し、飲食物や軽運動での便秘予防に努めている。チェック表により、個別に便秘の対応を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の希望に合わせた順番、時間で入浴して頂いている。入浴を強く拒否される方の対応に苦慮していたが、本人との信頼関係を深めながら、根気よく原因を推察し、徐々に入浴の回数を増やす事が出来た。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室やソファ、居室等思い思いの場所で休まれている。その時の状況に応じ居室へ誘導したり、皆さんの気配のある所で安心して過ごして頂いたりしている。一人ひとりのペースに合せ休息して頂き、又、昼夜逆転しないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の一覧表を作成し、担当者以外でも誰がどんな薬を内服されているか、把握出来るように努めている。症状の変化や薬の変更時には、特に注意して本人の様子観察を行い記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼりを干して頂いたり、洗濯物たたみ、野菜の皮むき、食器洗い等、個々に役割を持って頂き継続している。週に一度のカラオケを楽しまれたり、外食や行事の外出なども支援している。家族の協力を得て、面会、外出、外泊を楽しまれる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、外気浴、美容院、買物、外食、お祭り、お花見、お墓参り、法事、弔問等、本人の希望時には出かけられるよう支援している。又、家族より相談を受け、ホームでの状況を伝え、お孫さんの結婚式に出席された方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何名かの方は本人、家族と相談し、本人に合った金額を所持されている。買物への付き添いや、支払の支援を行っている。使ったことを忘れて、探せずに被害妄想となる事も多いが、一緒に探し安心していただけるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用できるようになっている。家族からも気兼ねなく電話を掛けてもらえるようにしており、家族とゆっくりお話しされている。数名の方は家族へ手紙を書かれ、やりとりをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けを変えたり、毎月の行事を見やすい所に掲示している。大きな窓からは、遠くの山々、田んぼの景色、農作業の様子などが眺められ、季節や天候の変化を感じられるようになっている。玄関、テーブルなどには季節の花や植物などが飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナーや和室などで気の合う方同士、寛いでおられる。冬はコタツで横になったり、お茶を飲んだりされている。玄関でゆっくりと外を眺めながらの外気浴を日課にされている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	入居時に、自宅で使用していた使い慣れた物や、馴染みの物を持参されるようお願いしている。また、思い出の品や写真を飾り、寛げるようにしている。希望に合わせ畳部屋にしている方もいる。 居室で花や植物を育てたり、好きな縫物をされる方もいる。夜間は針を預かり危険のないように注意している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場には、分かりやすいよう目印を付けている。時計、カレンダーなども見やすい物を使用している。		